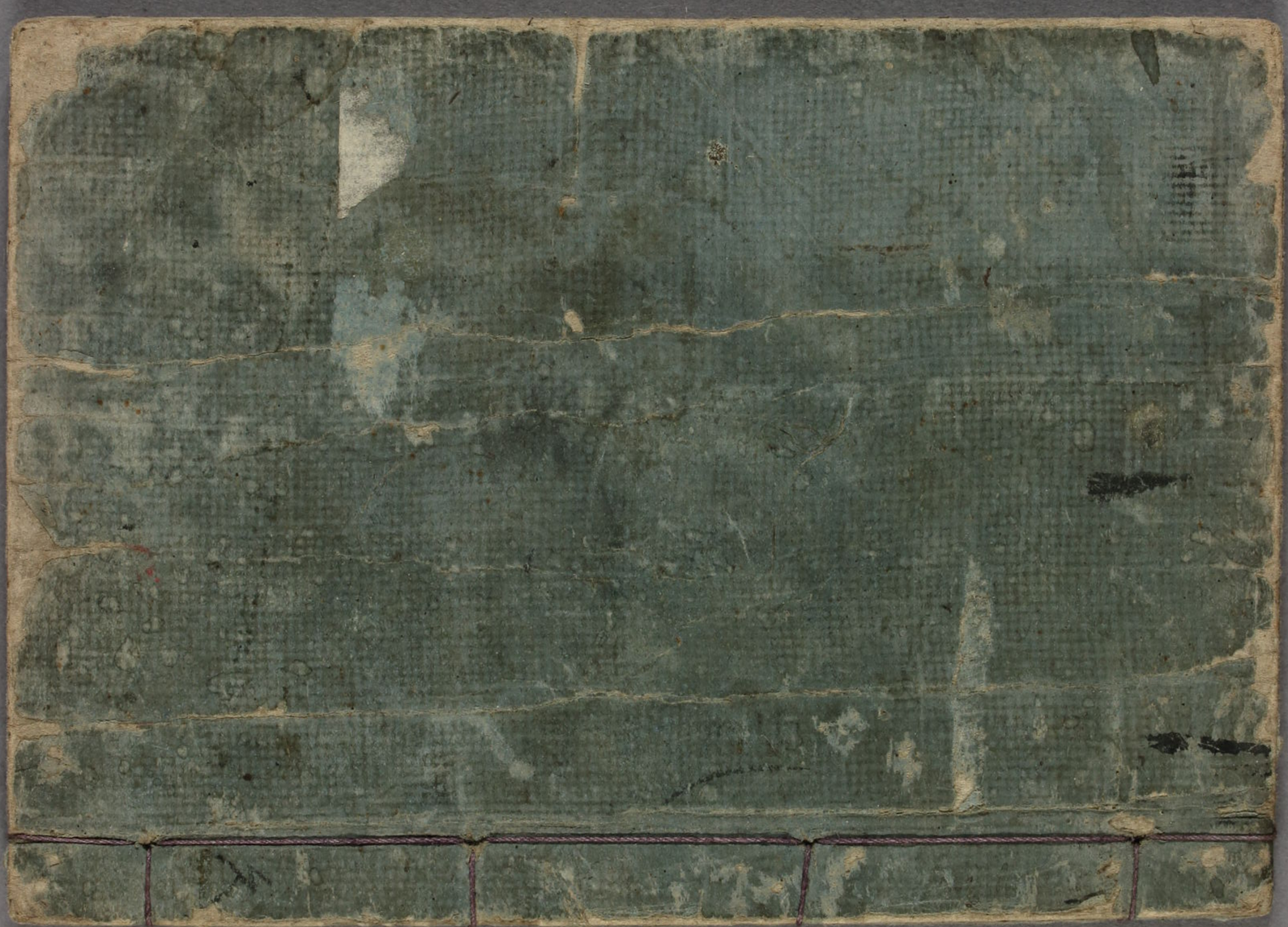

晩花坊宗匠校

正風俳諧

季寄二見貝

書林 文粋堂梓

かゝるひとゝきもを覚すゝ頃を省き陳を補ひ
大ゝ言を要ゝ益なゝこゝ二見と名ゝらゝいせ
をゝ海士の小舟拾ふおゝとゝ
ゝなひもゝゝらゝて四季ゝれゝさゝを拾ひあゝゝ
海ゝふゝとゝ収てはひゝ剞劂ゝ命ゝ
天保宮のゝ
時ゝゝゝゝゝ人誌

凡例

祭事會式の字數多くして句ゝ調ゝかゝ
除め公支故支月令等例ゝ古抄の無用を省
きて當用を其まゝ出ゝ但し一此まゝ以下
ハ祭支會式公支故支月令と知ゝ一部を分ゝ
季となゝ雑となるまゝハ一此まゝを冠

備前森々菴松後監定　男　金馬仙松宇撰

春　青帝　蒼天　東君　詔光　年立ツ　新玉　雪の年　そらと　春立　年始　年花

太郎月　睦月　端月　王春　祝月　陬月　孟春　年立ツ　元日　初春　三ヶ日　元三　年月日始なから　元三も回ル　初春

今年　旧年　去年　往年　玉年　昨年　初年　初春　初歳

らむ発句までハ當季平句までハ季うせ
て季ふなう又雑ともなるなり

季節を跨るもの○此もの寄らむる発句ふハ用ゆ
まじきよる事ー

八平句の用其季ふ法まるく

発句ふ充句作ふよる事ー

初醬　初柿　初孔雀　法華　書初　衣更
初矣　初夢　初めて　横初　弓始　馬乗初
初しめ　初商　店卸　初荷　若衣初　弟元
湯殿初　初嵐　新年初　義開　謡初　遊初
初芝居　初富士　初雪　義水　包丁開　陰暦で井を封一重
福寿草　えりそ　競馬　筆始　筆納　仕事始
掛鯛　みそ鯛　年徳神　書初　年棚　門松　妻戸
門飾　竹、縄、注連、葉、松　大服　人の五穀と立味をそなえ食べ
を植て歳を延べる福ある　新煮　田原より生海苔
芹及大根入　若菜　福葉煮
年男　押鮎　鮎の白干を鮎
年魚そそる　若餅　三日の間
つく餅のこと也　福引

承とも　橙　橘　干柿　栗　柚柚の
美柑子　食ひそめ　保世喜　み春
歯朶　裏白　譲葉　敷くもの
境候ぎどと祝也　楪葉
屠蘇　白散　邪気をさくる薬名
膏薬　薬をそそのかすこと春

蓮十ぢ　ぎりく　杉の門　浪速の門　もゝ鞠　破石矢

朝ぬつく　胡鬼のま　ま板羽子板　おい姫子　杉鑢子　福禍

とまろう　うの内さま　あろといふ　いろつも、あぐら　四月の　蒜塾と云　美餐　美事

美詞　もゝ追　大正舞　偶偶筋　猿引　鑿あふ　美

清々の住持赤衲衣の袈裟の表面で茅を葺屋根と云　年玉　初みね　小松引朝参

男女念仏を唱ふ初詣でを云　掃初めと云

少女のみ年ごろあやうんくまもる　美菜摘　人日　若菜の羹

十日堅田を立て京に着　一節俵　京より堅田まで七里　三尺七寸　七九日ともいふ　俵

七種　芹　薺　御形　菘　蘿蔔　仏の座　菜　葉　菘　蕪　菁　蘿蔔　繁縷

帳綴　赤豆粥花　十五日粥　杜若の木　庭竈　浪速の門ちと焼　爆竹

十五日年玉　水祝　十五日年玉　屠蘇　九日　三月　九日　三月　囲ふ

裏文　梅の花　白梅　紅梅　椿　雪ぐも　雪汁　雪ぐもり

淡雪　春の雪　服忌　下萌　芽出度　祭礼

艸木芽ぶく　松の花　緑より　松ともいふ　蕗芽　茹解

筍も　蕗葉葉　角ごも芽　芽の莖　萱葉　ゑぐ葉

井　根菜中　蕗薹　菜花　活大根　海苔　生海苔　甘海苔

海苔乾菜　海苔ともいふ乾菜　雁角菜　紫菜　紫菜藻

猫の髭　苔菜　蔵菜精

○春二月より酒肴

露　生姜　韮　曙　ぬくい　ぬるい　ぬるま湯　初午

さゝつま　ささがきにした　虎杖ともいふ　水芹　ものわすれ　ものわすれ草

百合根　二月の二之午　芎　紀陽も　金毛も　金毛白毛　駒も　柿

川ざらし中　肌ごみ中　果も　ハコ　春鰻　スタ　春蛸　ちゝる蛸ともいふ　山笑ふ

春山の飛容とり　山葵　日上　鰊、魳　疫　魚も　春の美味ともいふ　干大根　魚ともいふ

初菜　芹　薺　蘠蘆　くれない　天王寺かぶら　京都にては二月多く生ずる大根　三月用　慈姑

蝋燭皮　鯨　今年　去年より抄正月の乗初の開き儀　鮫

蝋　鳥筋　鮒　鯊

水葱羹　夏なり　ぬなわ　ことし　山葵

月花　月は四季共に有て花は春と秋なり

野花　夏の曙　蕨　ぜんまい　苔高摘

蕗薹　時なるもの　蓴　ぬなわ　呂の字　ぬるぬるとして

仙気ありて　ほそのむこと

飯銚　干鰈　二の矛

擂餅　佐保姫　夏と秋とある神なり

仲若し　甘海苔　搦菜　学

義人と称する事甚多し　三月ばかりの草也

初寅俗　香卸　敷馬

十日　寿詞奏　春儀

十九日　厳嶋祭　下亥　年ごとに求

十九日　清忌　九五の日

二　新嘗祭　二の日　十月始子

裏の連歌　二篇おこなわれ儀式の表斗かきしるす

日　裏のと云例は歌小野より出る

元日節会　儀式国栖の奏く子笛氷様七曜古暦腹赤結ひ如の物

新宮の歌のもつさをさめ　酔ともなう鶏も作国栖の人酔ては

よも　四方拝　元日　四方の山後を向一双果をとる者人

ふんどしを吹て笑ふ　よりかけ時々民戸の果を作る

朝拝　元日

奏賀小松殿もこの帝を奉るより
新嘗の後上の寅の日の白馬の節会を奉らる
馬とつまごは奏名
卯をまつるなり

十四日 今日七日の
内裏節会なり 御薪 十
五

この日節の
庭丁あり 男踏歌 踏の民者ども袴を掻て今ようよーむ男女
踏手あり 袴のくゝりの紐ゆゝしく踏の足竹なり

こゝの
清涼殿 八日より十四日まで
御法 楽の裏をぬらる

雨水之節 正月の中 魚氷上 立春より
五日め

卯杖 上卯
卯の日

白馬節會 七日 七種を供ーるくにぐにー
はこの奏ある白馬をいう

卯杖 上卯
卯の日

十日 今日七日の
内裏節会なり 御薪 十
五

この日節の
庭丁あり 男踏歌 踏の民者ども袴を掻て今ようよーむ男女
踏手あり 袴のくゝりの紐ゆゝしく踏の足竹なり

こゝの
清涼殿 八日より十四日まで
御法 楽の裏をぬらる

雨水之節 正月の中 魚氷上 立春より
五日め

元日 十五日 灯の竜アノニテなり元旦タ
日 ニ云上元のそこいまつ要ー

元日 梅花月 更深 夜
今日 小寒七日

年次 ねこ子丑寅の人名年と次ぎ
記年号と配てかぞふる事

歩代 新年 今年
初春 一夜正月 一日

鶴子 子雀 親雀
孫雀 子ども 雀の巣 古巣 鶴 鶯 鳩
大雀の巣 雉 雉

朝廷 すこぶる 白尾、白き 鳥
とりて尾ふる 鳴雀 雀 尾 猫 猫
猫 猫

雀 平雀 五十雀 小雀 山雀
ちゝまき 啄木 まろまろ 森の雀

雀 小さき角 雀の名称 燕
雀の名称

頬赤 頬の赤き雀

連雀 頬白 時 共に一句 詠ずる 歌仙 歌 俳諧 発句 脇 第三

庭鴛鴦 筆屏 松茸

毛蟹 猩々 蛸 蜘蛛

汁鴨子 鰈 鮃 海鼠 海鼠腸 鯨 海豚 鯨汁 鯨羽毛

黄梅 鶯梅 陽炎 柳 梅 紅梅 唐綿梅

接木 梅擬 初鶯 一重梅 如雪梅 一重梅 如雪子

鷺 鷗 鶴 鷹 鳶 鳥 琴 琵琶 雲雀 笛 田螺 蜆 貝

燒野 芝 すゝき 尾花 代掻

牛 田うち 耕 畑うち 畠打

田を売人

青辛 蕨 薇 牛蒡 独活 松菜 松葉 防風 蓮根 蓮根掘 芹 独活 虎杖

菫 一夜 名乗 名乗草

さいさまも

秋芽若菜 若萩 若柴 若の五葉

花を待 蒲公英 蝶 中

菊苗 菊根分 菊の苗

栄え 似そな 白菊と 生を実いの菜黄の如

煙 烟 蕨 十六ささげ 花ささげ

初午　稲荷祭

根芹　菜の花　大根引　苣　蓴菜　蒪　蘭　繁蔞

初雷　初鳥　雉子　雀　雛鳥　貝寄風　鶯　蚯蚓出　蛇、蜥蜴、石竜子

鯛の子取　一名かく数のよハとも　お通の為也

春日祭　上申　餝馬　一日　薪能　五日

彼岸　春分　入梅　八十八夜　茶摘　仏の果　嵯峨お焚　十五　踊念仏　時宗　六斎

風巾　頃よりの東風　東風　韮　雲雀　鶯　蕨の花

大原祭　上卯　御棚講　上申　涅槃　仏のおん

神農講　八日　祇園講　八日　大原祭　上卯　御棚講　上申　涅槃　仏のおん

聖霊会　十二　北野御忌　廿五　積善　十六

茶摘の節供　浅間祭　十一日　御霊会　廿二　北野御忌　廿五

釈奠　春　水取　春

初午祭　四日　天王寺にて

列見　十一月廿二日　一名女相撲　又は女のめし

中酉　鷹化成鳩

虹始見

弥生月　花見月　姑洗　辛酉月　桐月

上巳

曲水　盃流し　艾餅　桃花　桃の節句　雛祭　桃の宴　桃の酒　雛の宴　桃の節句　桃花節

起つき曲水の和漢の風流　雛人形ことに　桃の節句　桃の宴　桃の酒　雛の宴　桃の節句　桃花節

おかしき古記あらはせのこ

汐干　三月拾日　汐干狩

桃の宴　三月の節句　桃の節句

梨の花　杏の花　連翹

海棠花　躑躅　辛夷　林檎花

楊梅花　木蓮花　王簪花　仙丁花

楓の花　躑躅花　木瓜花

きぶくの実　橘花　結び柑子　柑子の実も

化生の日　女の節句　雛祭　雛遊び　伊勢へ

都草花　石竹花　瞿麦花

蕪村の句　仙翁の花　石竹　瞿麦　石竹花

麦秀　麦の穂　麦の秋

馬蘭　あやめの異種

九輪草　桔梗　桔梗草　七重二重廿位九輪と

馬酔木花　あしびの花

通草花　木通　あけびの花

杓子　杓子花　ひさご

地楡草

萱草　忘憂草　萱草花

金凰花　五加木　うこぎ

丁子草

若竹　まさて　蕨耳　三月菜　青大根　蔓菁　嵐麹漬

そこ綾　上ごる　みうらえ行ふ

若蕗　山吹　あるうけるかくこころさ　芽独活　牛蒡牛の字　若布　かとめ

青麦　麦麩　みうるる　柳蒸　いとまきのこと　紹鷗　柔漬　精炉きこ茶

炬燵　炉の名所　大徳国師　裏堂

別腹　名物のまれ　八十八おく　八十八夜　独活　呼子鳥　ゆふこ鳥の字也

虹

上り簗　若鮎　小鮎仮、ちご、　梅魚　梅奥　喜源一麩

蛍飼　素子蛍狂　和漢指　英の花　○簗　○鮎　弥生尽

梅鯰　初鰹　鰹鯛　梅鰹　うくひ斗る　梅貝　梅海苔

苗代　水口祭　みなとまつり　阿蘇泡沫　永き日

ほうき星ほうき星　ありの口　その日　雲雀　行春　去れ名残　去るをしむ

三月晦　若供　三月の末つ方

南祭中午八幡 已日秡三 須の祓と八洲民須ノ日ニて秡ふ事をつかさどる 栗津祭三日 石山祭三日

やすらひ祭十日 やすらひの花よ花のもとにて踊る 法会舞 十日 十字雉 墨直舞式

十二日 双林寺 壬生念仏 西方寺 四月狂言 大念仏 千本念仏 元盛ニ

清水祭十八日 御身拭十九日 勧学会 十五日 比良祭十五日 人丸供十八日

御影供廿一日 峯入 峯ニ入ル 秋八峯ニ入ルをいふ 稲荷祭中午の祭 廿日

青を踏上巳ニ接ニとなり 寒食 冬至の後百五日ニ当る 火を改ることほゐ 今も推う熟死を悼むという起る事の

饒青精飯 七月十五日の食 鞦韆の戯も此日の事とぞ 七夕 七月七日の夜の事 田嵐成韻

灌佛 四月八日 曲水の宴 三月三日ニ行ふ 清明節 三月の節

夏 朱明 昊天

卯月 中呂 余月 巳月 花残月

拾 卯の花 垣根に多し 重ね咲 若葉 残花 若葉の花 余花

牡丹 甘草 屈菜 饅頭花 名ふ 芍薬 燕子花 鳥の名花 芍薬

ろひすき　山蕗の花　蕗の花　苔の花　笋　筍のよ

布苔　風車の花　踊子草

若布　桑の芽　新樹　柔挽茶　かくすまき　沙参の芽

宝蓮　汚渠水　虎耳の花　雪のした　ゆきのした　ゆきのしたかく

瓜茄子の花　雛一汁　秋の末多く菜の葉の虫をはふるふ

金盞花　長春　鳶尾　むらさきの

本中に射干烏扇を出一物ども未詳仍其形かたちを

あやす中　射干　鳥扇　ひおうぎ

鴨足草　烟草植る　花菖蒲　きんれんそう

栴の花　移園花　鶺　てんくわうよしや

苅萌　薯蕷花　病葉　ふようくわ　やまのいも　わくらば　秋をも

蕎菜　石龍芮　たがらし　そばな

鶉鷸　莧人草　苦蓬衣日ものせる所ゝ居の

柏殻花　楝の花　漆擂　くくとうの　うるしかき

葵をおめて雞害虫とはばかりしらねど回有是おとつめ

さゝ竹の　白子花　厚朴花　わうぼく

山茗荷子　麦秋　形蓼ゝ川　きやう　ミやうが　茗荷子

桜桐花　雲つゝじ　つゝじ花　子規　ほとゝぎす　四月の異名　冥途の鳥　蜀魂

芳ハ蛭　扇骨木　蛞蝓　蝙蝠　蜘蛛の子

蝿虎　行子　落花生　西字割葦考

魚をもりて叺くもの

加鯉　煮酒　塩鳥　紙　麻袋角　蓮の花

蛇野虫

多武菓立　苣　石斛花　生姜芽　玉米花　久々知花

和の字にて略するをつかふ

新茶　古茶　番茶　老荷　老ると

荷前附子　菅笛　子子

○三月上浣る物

扇「扇　雲扇　風炉　竈　木子

駈掻　川狩　魚　蠅　釣川　海、舟徒行ニ

帖　衣の月　收巻り　假帳　紙帳　假枕

干飯　飯朝　短衣　祭　鯉

衣のやうなる衣の表　洋走　船の子ら

生鯉 仙 芥子 初秋
蒸鮓 多鮒 多魚 多虫 仲冬
揉菜 滴山 多山の形 多山の形 晴初 葉柳 葉柳
汗 汗拭 繻 匂袋
廣瀬祭四日 蓼祭中 蓼祭の日 瑞籬祭四日

新嘗祭一日

多き男の教えと詞をかけまくも忝なくも小忌衣を着給ふ形

勅使和英を以てするの意なるも和英の詞あるべきにあらず

山王祭中日 天王祭 祇園祭 夜入 八日 夜宮の花 安居 行祭
灌佛八日 仏生会 花供 九日 多賀祭 上巳
八講祭辰 松尾祭酉 稚児祭十七日 邊供養上申 薗廣 多賀祭 上巳
日吉祭 古八四月廿九、今六五月十四、 孟冬旬 一日
更衣 小袿をかくの衣をかくるをいふ 裳のあ
神嘗祭 中申 梅天
おそ天のふる
皐月 甲苗、月多之月 多植、雑賀月 和漢天 四月 小満 四月 中

端午　高舂高く洒く汲こ冷水　なやめのうら
午の月あれいわの手とらみ玄端立も初の五らめ玄菖蒲八百
病をのそくし茶湯
み標の帯もその日まで

雉子　雄　雌　雄の羽織辻ふ衣　雌はあさ帷子

くゝ部茶るとふみ鼓弦を茶を挙てうら一競渡五月廿日あつる　居るをこのめる
葉てくるのあり

を作る　昔俤　曽鍍五月廿日　端午　職立　日　工　市地子　日　工

石菖　なめ　合歓　ねむの　百合花　幕床　花萱草　わすれ草　根

青蘭　紅花　未詳

蘂の花　葉刈　薄の花

苧蘇刈　五月雨　五月雪晴

杜鵑花　さつきの花　羊躑躅　きしめの花

入梅雨微る　水下雪る　義て昔のくらきをうみ

あふちの樗の花　中元中　芝左の花　升植　十三　茨除花　うばらの中

萱草花　生男子　慈姑仁　紫陽花　四かうの花

木槿の花　柚子　柚二種も柚あり

浄光の柚あるよへうそ信てそ有てぬけ　盧橘　たちばなの名

維線菊　椎の花　金銀花　きんぎんの花

藤葵花　蘭の花　栗花　蜴牛　蒜植

款冬　紫蘇　莫　茗荷　莫根

李の花　杏子　青梅　露盞子　青山椒

藜　天蓼　花椒　大蕾　淺斗

早松茸　君牛房　空豆引　大角豆　南天花　蚊帳釣

蛍　蔥　かたくり　ゆり

第七件花　ゆすら梅　棘のとし明葉薔薇ハ花はうてしみ吉おと葉とするも悪し

酸漿花　葉ハ食ふ

掩子咲　若丹　作

天南星　田植　早乙女　田植うた　ゆき菊

青苔　田字草　細辛　蕗、稈、胡瓦、秬、柳花

未央柳　蟹の爪　雨蛙

通り花　黒鴨のかるのす　翡翠　かはせみ

「作の屋巣」「私の巣」　野鳥の巣　鳥の巣

蓮花　はすの花　夏
　池に生ず　みのうへ
　　敷物
大蒜　ねぎ　別名　大蒜をとるねぎにひるとも　夏
　　ねぎにらとも
松葉菊　竹葉菜　夏　盛なり　小葉
　すべて花をいふ　虎の
　　尾ともあり
鳳仙花　つまくれの花　秋
　　梓の花　ほうせんくわ
かんぞ足袋　松本氏一名　競馬　十日　賀行幸ともいふ
　有行幸のこともあり　住吉御田植　北
　　小原さし　北小雪積と家
　　八ヶ岳の雪舟
有馬　廿七日　温泉　冬
　　十一月
　　十三日　今宮祭　十一月

紙園の選洗　脇日　薬玉　五月
　　五彩糸
帝のたまはりもの　方右近左の番　三月廿日
　　左勝ちて負の方の盃をいただきそのあとの盃をいただくこと
　　左勝ちて負の方の盃をいただきそのあとの盃をいただくこと
始て瓜を供ふ　六月の後　立秋後日ともいふ　五節句
　　五月廿日
名至　五月の中　蛇脱衣　五月廿日
氷室　一名氷室　氷のわりもの　夏
氷豆腐　氷餅　冬
氷魚　たべもの　鮭ともいふ　冬
簟　竹製ありて暑きをしのぐ具

竹夫人　抱瓶　生姜　お菓子　飯
心太　ところてん　涼風
泉　一日傘　葛水
音訓　夜叉柴　新井　井そこて暑き日人々水と晒井ニあらん　玉葉風
海月取　煮梅　梅むき梅の事　虫下虫拆
名備　土用干　納涼　川、橋、涼み　雨乞
沖鱠　海辺ハ作り魚を漁るを専ら魚破を用ゐるなり

そと読めどもさまざまの事ありて山谷ことと新きを油そるをよ
百日紅　さるすべり　白雨　暑　蒜の根
林檎　醍醐　形更中考古ありや字　菱の花　澤瀉
蒲穂　蒲黄　蒲の雪も出　渡雪　麻　麻花　楊麻　まをの皮の事
竹夫人　風呂敷の事　蒲刈　眼皮　腫る　むくみ　干瓢むく
鉤草　香薷散　赤草　ふるまし　風菜

時計草 虎尾草 切支丹草 葛花 蜀葵花 紙漉草
水根をとろ〳〵とひて粘けて帛を漉
蛾眉草 冷汁 赤ゝ 藍刈 青黍椒 青鬼灯
夕良 たそれ草 豆良 絲瓜花 木綿花 菊油造
醯造ル 酢造ル 金亀子 藍の花 蜂
大良漬仕ル 富士雪消十五 草石蚕 蛇床子

蝮 霍乱 練雲雀 羽毛布團 摩羽ル
絡綿 「土用 水喪 秋蒜 秋ちか
一百會 百四 紙園會 百五 津嶋祭 十四 笠鉾祭 十四 熟田祭 十五 伊勢祭 十六 上七
座敷添ト 其枝流のひくにます 悔の祭 十七 御霊祭 十七 蒙古祭 十七 山王祭 大 江戸
摺立祭 廿五 天神祭 廿五 大阪 住吉祭 廿六 日 富士詣 一日 サ 住吉踊 廿六 日 清祓川 廿六 日

五神祭　川社　大祓
茅の輪　施米　菱供を
祓ひらふ

小暑　六月中　腐草成蛍　二候

温和のうつくしきを小伏といふ三伏の
暑の candle を秋の垂兆として庚毎に伏するこ
と嘉定喰十六を異とす

秋　白露　金商　昼天　昴景　三伏　えもう　伏雷四のうつくしきを中伏立秋

文月　七夕月　夷則月　初月　芒月　雷鳴陣　雷乃ち帝と
ものいふ

一葉散　相秋　井戸之。雨乞　残蛍
相秋

秋の悼　露雪を
詩びても　郭葉湯　新良の素麺の
俗よおろる　初露　朔会、初雪時
時候り

西摩　渋柿摘　秋　七夕　二星　星合
摩山の

立琴　手洗り　芋葉雫を　牽牛　毎蟹姫　織姫　星祭
梳の葉　星迄　天の川　ささろる糸　書をひる糸　彩良姫

薫抽姫　いめのわり　芋星　粉の物　七個の瓜　乞巧奠　織女八天帝
像小袖　九献波　の娘で後添
して女機をつとめよりて天川を隔てくらすこと一夜
毎つむ七個の瓜とハ七ツの盤よりをへ糸縫をつけて星をうつ
字多辛氏のまたくうをもあそびよりて素供として雫の露を
ありてあるつくりハ素麺を食ふ

残暑　初風　七夕祭の句

扇面扇置 扇を有る方を
中元 生身魂 物鮮 踊
あつむ あつめて 七夕 鞦 風冷 ひやう
草の花 茗荷の花 萩の花
庵の字 止杜の字 女郎花 おとこえし 男郎花
秋海棠 車の花 桔梗
ひとへ 土 人多くつどへる 庵をいふ娘をもいふ
挑灯 花火 ほたる
牽牛花 白朝顔 野良豆也 木槿
とんぼ 蜻蛉の字 萩の花
おとぎり 世俗花の似て花を並べし 芭蕉
ひとつ 一つの梅雨 茱萸 ぐみ 山茱萸の実

蓮 もゝ 葉裏 葉をもつて葉裏のめくるをいふ 狼尾草 おのこ ゑのこ 萱草
蕎麦 めそうき 角力艸 菜の字 あつもの 羹
草の葉 いる 秋の花 実のるを 曼珠沙華 狐の字 死人花 彼岸花
西瓜 植豆 ゑんどう 隠元豆 鶏頭花 とうけい 芙蓉花 ふよう
南瓜 かぼちや 糸瓜 へちま 菊花 きく 菖蒲花 あやめ
木瓜の実 くさぼけ 虫 虫おそる 虫ばむ

仙翁花　花ふぶ　花野　野のすゝき　すゝき　蘆　蒹葭

花畠　花壇　頼朝花

稲の花　稲のまじりもやう稲　三毛の花　茶立虫　蜻蛉

かまきり　蚊ほ虫　やんま　虫　虫狩　虫籠　蛬　蟋蟀　蟷螂　松虫

馬追虫　地訓虫　蟋蟀　松虫　鈴虫　蜩　促織

藻に住む　螽虫　蠹　二百十日　野分

夕皃の実　天瓜

○三尺に余る物

茄子　猫舌　落花生　萱　棯　角力

すゝきハ秋草の内あれハ秋と思ふるものなり此ほかにて秋をしるものすゝきを尽すよりて秋とす

秋風　風情　七夕　五節句　重陽の節句　又今日

鮭の子　番椒　蜀椒　引用書

秋を領する物をよめる　鮭

鵜川鮠の祭　月　名月　夕　玉兎　下弦　白駒　晨明　上弦　片彼月

桂の花　月の異名　秋季と定もの　季の初を詰ふ　此八四季の月に用へきこと

○菓　○鮎　下冷

川狩　新米　古来　毛尺　検尺

粧ふ山　秋山の形容をいふ　律の調　秋の調ふこと　淋しく　走　野を奏ふこと

蟋蟀　急なるこゑ　秋の暮　○鷹　虫　千種花

稲刈　稲あき　礎　土臼に作る　舂　冷　すさまじ

新酒　妻こ八九月之を

北野天満宮　六の　文珠會　八　○六道參　九　迎接　十　精霊　盂蘭盆

魂祭　迎火　墓供物　麻木苧　蔵屋敷　墓参　魂棚　迎火　墓参　切籠　草花市　精霊　竹竿

灯ろう　八月十六日ころう　難し　盆八　目蓮七母の為ときくく

江湖の景　江湖に集りし　侍ろうを云　梅結

○あま入　三井寺安清　五　寺霊　十　地蔵祭　廿四　みさ山参　廿七

みさ山参　種屋作　種屋八　寺の持ちていろいろつくる　夏暑節　七月中　新線ろう　十六日

葉月　八月　壮月　秋風月

八朔　たのみの祝　田面の日　待り会

入てまろう浪嶮峨帝　古田の実とそ打香と米そて入
名宮のおとうおろとそ　初紅葉　てまろうとしろかいかいかいかいかいかいの実

雑訳　聖薬　鶏草　金剛子　厂朱紅

菜根訳　沢桔梗　我木瓜　菜と云記歌　葡萄
　　　　　　　　　　　　　　あるみと云

葛の根　葛花　藜芦　王瓜

野老　通草　竹伐　竜葵　槐蚕　繰綿

極楽花　菱実　木賊刈　鬼灯子　鴨跖草

ちくさのも　刈萱　木蘇附風仙花　紫苑　鬼のこ子
月かもも

車前子　芋　ぜんまき　仙堂縁　苦参刈　牡丹分根
　　　　　ぜんまきの冬後ろ

苗等

木賊取　苔のこ　苗姫　葉竹　若烟子

菜姫　菜根苗　黒薬苗　からす苗　間引菜　接菜
　　　　　　　　　　　　　　小菜

つまふく　栗稗黍刈

四そち　かりくち
曷ま　　

陸奥　サそてかそりう
余そおこし

引板　陸奥ノ国ニ　案山子　多おそ　蒿雀那雲

うそ雀　おそ
やそ雀　おそ　秋月　三百月　待宵

ふた月　名月　秋ノ三良夜　今月　名の月
月の異名　月見　芋名月

稲　稲舟　稲莚
刈田　稲扱

既望　十六夜　いさよひ日　立待　十七　居待　十八　臥待　十九　亥中月　廿日

駒迎　春　お　春秋の彼岸　彼岸　五　十日　里へ招き　里へ送る

鮭　秋さけ　初月　末濃　小雪渡　みぞれ　初雪　時雨

きりぎりす　秋　松虫　鈴虫　四十者　山者

うそに鶫調　時雨　遠寄　眼白　五十者　小濱　鶫

山鳥　鶫に　聴

ふゆる陸ふとハ　ふゆて　ふゆる　ふゆる

冬遊　礼義　弱る冬　寒き冬

山鳥の尾の如く一百八雑あり

なつ蔭 なつかげ 駱 おおとり、このさと領、このそばえ

稲葉名 いなばな 三ちの ふたのちの。時正。社日 小鄭引 引き戻

葛野 かずらの 松葛 松葛が 猩化葛が 江鮭 あめ 鮭 さけ 鮓 すし

此の原と云ふ所に集りて叫ぶ 鼈甲。裕 おとろ 蓁 あさ

鶫、、合 鶫衣みうち衣 鶫、、纲、、雀

太刀魚 鯔、角 牛房 ごぼう 砧 まないた 莫邪 ばくや

水村梨一小卿梨四日 白氏諷諫帳五日 敦賀梨十市 八幡梨五十日

敦井令 おおいのりょう 西院梨十八日 菜名梨十八日 菩薩梨十三立

宣府梨サ五 玉浦梨十五 鐸鍋梨十。彼岸 司召十一列 参十一人 招

をかしら 白雲 ぱいうん 侯 角力の下ニ居る 虻 あぶ 蚕 かいこ

蛇而足 おろちの

長月 春之月 稲の秋 菊月 神無月

重陽　菊酒　茱萸袋　栗飯　栗羹　栗ご飯　栗ご汁　栗ご汁の
九月の称　菊重衣　九日

九月朔日を言ふ　秋ひと重　秋の酒吞ばをとりて言さしのたり
菊を愛ふ　秋ふかし　秋の菜　栗飯　八重むぐらの穂ごと栗を炊るよし
うつし菊　菊かきくもりて　花そよみ　菊のたもとの
そて　菊をみせくし　菊重ね　お細八ばら　せゝ来れる

落の雁　菜の花　百舌鳥　鶫　鶲　鶺鴒　鶸
雁　雁渡る　雁来る　雁鳴く　雁の声　雁の列　雁の棹
雁の乱れ　雁の数　雁の文字　雁の使　雁の便　雁の玉章
雁の信　雁の初音　雁の初便　雁の初信　雁の初声　雁の初文
雁の初使　雁の初玉章　雁の初列　雁の初数　雁の初棹　雁の初乱れ
雁の初渡り　雁の初来る　雁の初鳴く　雁の初雁　雁の初

雁来る　雁渡

初鴨　冬来　桜会　仏甲　冬たち　秋白花

鳥頭　竜胆　仙翁　落　蘆　竹の花

紅葉　柿　梅　菊　楓　橘　柳　櫨　綿　繁縷

晩稲　擔田　早稲　稲掛

十三夜　栗名月　二夜月　豆名月　月の名所　二夜の月　月見

網代　霜時雨　重陽　野菊　霜露　菊酒　古酒　清酒　菊花頭　菊の節句

名所の月　刈田の夜露をひろふ雲　紅葉前　菊の節句

重陽　風炉名残　秋雨　秋深し　暖酒　九月九日より古酒とす

長き夜　夜もすがら　夜寒　秋の名所　その秋

秋もも　九月晦

舎利会　八日　醍醐会　九日　鞍馬会　九日　芝祐会　九日　生玉会　九日　下る朔会　十日

四宮会　十日　宝市　十三夜　住吉　白川会　十日　小倉会　十五　栗田会　十五　水田会　十五

岩倉会　十五　御祭　十六　伊勢遷宮　十七　岡崎会　十日　淀会　十二　住吉会　十七

景清忌 十八 蛭子参 サ 諏訪参詣 七 牛参 サ 北山参 サ 鳴滝参 ナ 八

山口祭 中午 清住寺法 廿 法村祭 廿 虫撰 廿 雲客嵯峨の里をとぶらふ 野宮別

吉野より八源氏を引てきたるとも十分ともおぼえず 行宮くずれ、ふるさとと思ふ

崔苅蛤

冬、 元英 上天
羽音 玄帝

神無月 忌る、 初て 初冬、

小春 小六月 炉開 巨燵開 曲炉裏開 御入 炉衣 炉扇 時雨 玄猪 まるき餅 黒き餅を喰て病を除く

柔切 熾の炭を 風 柘尾花 草花枯 ハゝき木 落葉 木の葉 枯葉 名残の花 つれの 白菜花 きんくハ 枯れ花 柔れ花 枇杷花 雪垣 海苔をそだてるせく 椿花 葛葉川 大根引 葉菜 苗引 麦蒔 冬耕 鵜 りさき

小窓閉　ふすまをあけ　ぐ　押入をあけて　ふすまをしめ　あるいは障子をしめ　あるいは雨戸をしめ

茶漬　奥そうる具　尾越鴨　干菜　納　干菜にて汁ハ茶漬　炭竈

炭焼　炭竈　氷魚　鮠　夜具引　今ハ布団　掛てよまて云　掌炉　炉

うつぼの　空穂　初鮭　初雪

○三月之部

雪　あられ　霙　こうれ

「帰雁　雁来」　「余寒」　余寒

「踏皮　鮫汁　鮭鰊汁　納豆汁　生海鼠　ほや　海鼠物

鱈　牡蠣　雲丹　雲子　雑煮

葛雲汤　雪酒　生姜酒　火桶　火ばち

火鉢　火桶　山眠る　冬山の形容をもつ

「埋火　「榾火　「囲炉裏　「焚火

暖補 湖石 居風呂
風呂吹 冬 季 日 星 冬籠
力茶 暖爐 名 火鉢 季 暖爐 炬燵 季 暖爐 炬燵 季
季を力として唐土の事をまねびて
矢くら暖爐八雑爐をいうそ足をなくむ 枯野 くさぐさ
紙子 冬仙 季 十月 あたゝかなれとみそれの外
兵前ニ成るを加賀ニ受教るまて 行燈 季
○おろす 蕊の塩 ○本咏 日雪 水洒る 切下

大根 蕪 綿帽子 ほうかむり 敝 脚 冬
神送 神の留守 神の掟 逢 忌 五 法花会 六 維摩忌 十 金毘羅会 十月
芭蕉忌 十二 冬籠 十二 十夜 音仏 十五日 蛭子講 十八 誓文払 冬
大社神送 下 出雲 神在月 十 神楽 神迎 孟冬旬 一 更衣
射場始 五 公卿弓 鋳初宴 五
みのの夜こかして汲鬼を祓ひ
こゝろうつくしく農をまもる
公卿行を修ふ 立冬 十月の節 下元 十五日 四月北上之日 天官福

を祭る七月の中えふ地官衆を免れ下えふ水官厄を解するし

霜月　卯雪　雪見月
天正月　芙蓉

髪垂　神名　かみきね　芽出梅　都久世　宝咲梅　桂雪

解ると云ふ　凍く　おつる　ほめさね　追善狩　摩れ乃寿

雪花菜　雪牡丹　穴熊打　猟取　かりとり　勲　いさを　和布刈　和歌　鯨舟　みるめ　鯨突

雪　ゆきまき　丸け　吹仏　年の花

八重咲花と六弁歌仙花とある是雪をも花さく八朔の雪を吹落すを雪吹と云ふ

雪洞　雪の用ゆる具なり

太山櫁　梅枝探　雪の降れるを探るなり　宗像参　上卯キノミ　里神楽　上卯　山科参　上巳　平野参　上申

杜支魚　かくれうを　相掌参　上卯　宗像参　上卯ツクシ

雪車　雪の宿　ゆきぐるま　つまあかき

松尾参　上卯　吉田参　中申　吹革参　八日　火焼　子参　子大黒　甘子　大師講　廿三日　俳諧　廿三日　歌思講　廿八日　大仏供　廿七日　春日　宇賀参　九

空也忌　十三日

朝且夕至　朝ゆふべにいたる　法つかう

釣簀　つるあみ　豊明節会　中は二つの辰の日あり

初松を祝ふなり　君が千とせのかげをこそ祈れ

一領　一つ　衣服

来待つ　来るを待つ

師走　十二月　極月　臘月

乙子朔日　早暁　十一月一日　暁を待つ

立入　立こめ　雪霰　雪と霰と

雪晒　雪を晒す　雪片綿　雪の片

雪垢離　雪に垢離をとる

雪酒造　某官　おほむね　朝廷　古くは十月

衣配　官人に衣を賜ふ

事始　上の巳の日のごとし

八目鰻　雪の時　鯉　みのごとき魚

仕丁奏　多貢納

挑灯　燈籠　畢竟のおくりの　忘年会

餅搗　もちをつく　古暦　暦の末　年用意

年内立春　年の内に立春の来る　古利根川の辺にて聞きしことを記す

落葉焼　つ積の物
み年四月の終ニ又ハ

枝ニ号ゆる枝を焚星化ゟ雪こゟ
小松ゟゟ秋四ゟゟ宝ゟゟ　冬季ニ

焼芋　焼芋ハ初ニ若季ニのめく女ニれ立て
ゟげゟ夜とゟてゟのをそよ　岡尺　蒸をさゟか
ゟゟくゟこゟ

ゟきゟゟ上ゟてゟの梅を尺
落ゟの里をゟかるゟ句ゟ

年取　年の雪を梅
多ゟ多尾　多名物　小海ゟ　大三十日　除夜　ざゟ原

ゟゟの取大ゟて
終をゟゟゟゟゟ

新仏　霊ニ会仏　臙八　大針ゟ上和　尼拂　礼徊

白木賣　五條五秋ハ度秋あれハ
焼て度秋を送ゟ務の係もおゟかゟ児ニ　和布刈秋夏晩

吉田祓　名ゟゟ忌　ゟ佛名　十九廿一

内侍所秋乐　ゟ上内侍所ニを
秋ゟ名火ゟゟ

追儺　常　あゟゟ
ゟ　ゟゟゟゟ

除物　除ゟ物ニ家ゟゟゟゟ
ゟの矢ゟて鬼を追ゟゟ

小寒ニ　十月十二月号　大寒ニ　十二月中

節巣造

潮花菴浦春自物

季寄二見貝 仰